

令和6年度 学校評価

那珂川町立馬頭中学校

生徒像	努力点	具 体 策	評 価 4点満	反 省 点	来年度に向けた改善点	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
1 多 様 性 を 認 め 合 い、 協 働 す る 生 徒	(1)生徒指導 の充実	◎凡事徹底の指導	3.1	(1)挨拶、整理整頓を意識して、凡事徹底の指導を行うことができた。一方で、休むことに対してハードルが低かったり、遅刻する生徒が複数存在する日があったりと生活習慣の凡事徹底に関しては課題が残る。	(1)継続して整理整頓、挨拶の指導を行う。また、時間を意識した生活についても指導を徹底していく。 (1)教室空間や授業への不応で通っている生徒に対して、サポートルームでどのような生活を求めるのか個別に対応する必要がある。 (2)行事縮小の中、生徒が主体となって運営できるように指導する必要がある。 (3)ローテーション道德の後に研修会を設けるなど、授業をフィードバックする時間があるときに効果が上がる。	○校内での挨拶はできているので、継続した指導を行っていただきたい。また、家庭や校外でもできるような指導をお願いしたい。 ○不登校の生徒の対応については、指導の方向性を明確にして、段階的に指導してほしい。 ○サポートルームは、それぞれの生徒の実態に合わせた利用の仕方がより充実されるとよい。 ○学校行事や委員会活動では、生徒が一体感や達成感を感じられるような生徒中心の活動を展開してほしい。 ○道德では、一般企業などの研修（アニメやドラマ仕立てになっているもの等）なども参考にし、内容を充実させるとよいのではないかと。
		◎松サポを活用した不登校生徒への支援	3.5	(1)松サポ利用者が増え、不登校であった生徒が通うことができている。一方で、サポートルーム内の過ごし方や教室復帰への手法などに課題が残る。		
	(2)特別活動 の充実	○生徒が主体となる学校行事や委員会の運営	3.6	(2)生徒会役員を中心として、行事や委員会の運営を行うことができた。 (3)ローテーション道德などの工夫を凝らしながら、授業を実施して多様な価値観に触れる場面を設定できた。		
(3)道徳教育 の充実	○年間35時間の確実な実施	3.4				
2 自 分 で 考 え、 自 立 し た 生 徒	(1)基礎基本 の確実な定 着	◎各教科におけるアウトプットの実践	3.4	(1)各教科（特に5教科）において、授業でのアウトプット手法について具体的な実践法を定め、それに向けて取り組むことで、全職員同じ方向に向かって実践することができた。町学力調査結果からも全国平均を超える教科が多数見られた。	(1) 授業におけるアウトプット手法を見直し、授業改善を図っていく。 (1) 「書く」ことへの抵抗感をなくすため、継続して「書く活動」を実施していく。また、各教科においても自分の意見を書く（述べる）場面を多く設定していく。 (2) ユニバーサルデザインの視点による授業づくりや教室環境づくりについての研修会を実施する。 (3) キャリアパスポートを活用した授業を実践し、生徒自身がその後の活動に生かせるようにする。	○学力向上を目指す取り組みは、長期的に考えてほしい。次年度に継続すること、改善すること等を話し合い、教師が一体となって取り組んでほしい。 ○「書く」ために「読む」習慣をつける指導をしてほしい。 ○書く機会が減っている生徒たちに、これからも、書くという活動の機会をしっかりと確保してほしい。 ○デジタル（ICT）の活用が、より充実されると良い。
		◎「書く」活動の充実	3.0	(1)水曜朝の「書く活動」の実施においては、改善を重ね実施してきたが、「書く」ことに慣れない生徒も一定数見受けられ、教育活動全般において「書く」ことへの意識を高めていく必要があると感じた。		
	(2)特別支援 教育の充実	○ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり（焦点化、構造化、スモールステップ化、視覚化、作業化、共有化）	3.3	(2)特別支援コーディネーターとの連携を図りながら、情報共有を密に行った。また、生徒が学習に集中できるよう、教室環境（特に前方）を整えた。 (3)キャリアパスポートのデジタル化を図った。一方でその効果的な運用までは至らなかった。		
(3)キャリア 教育の充実	○キャリアパスポートの効果的な運用	2.9				
3 挑 戦 し を も ち け る 生 徒	(1) 体力向 上の推進	◎走力、持久力の向上	2.7	(1)体育授業内での継続は難しかった。特設部の朝練等で向上に向けた取組はできたが、通年での実施はできなかった。 (2)メディアの利用については、個人差が大きい。健康観察を通じた意識づけを行ったが、改善までは難しかった。 (3)避難訓練（地震、火災）、引き渡し訓練等滞りなく実施できた。救命講習、着衣泳も消防と連携したかった。	(1) 健康委員会等で補強運動を考え、授業で実施する。毎週の体力向上タイム設定する。 (2) 親子講演会の実施。家庭での約束作りの場を設定する。（年度初めに家庭で約束を決め、元気に貼る。学期ごとに親子で反省をし記入するなど） (3) 消防署と連携を図った指導の機会を増やしたり、内容を見直したりして実施する。（起震車、VRの活用など）	○スクールバスの発着所を、学校まで歩く距離のところに設置するのはいかがか。それにより、体力向上につながったり、地域の人が中学生（子供たち）と関わる機会になったりすることが期待できるのではないかと。 ○DXが推進されると同時に、子供たちがネットに触れる機会が増えていく。ネットへの依存度が高くなるのを、どう促成していくか対策が求められる。 ○避難訓練では、地震・火災を主にしているが、大雨警報が出たときの行動の仕方等についても学んでほしい。
	(2)健康教育 の充実	○ネット依存への対応	3.0			
	(3)安全教育 の充実	○計画的な訓練の実施と自然災害への対応	3.6			
4 徳 ・ 知 ・ 体 を 支 え る た め の 方 策	(1)友達との 絆づくり	◎居がい感のあるクラス経営 ○人権教育の充実	3.5	(1)QUテストの結果や発達に関する専門家チームからの助言を生かし、実態に合った関わりや支援を行うことができた。 (2)職員作業や清掃指導を行い、整った環境で生活できるよう環境整備を行うことができた。	(1)QUテストの結果活用に関する研修を取り入れ、結果をさらに活用して学級経営ができるようにする。 (2)掲示物については、必要な内容を適切な時期に掲示するよう計画的に進める。 (3)現職教育の内容を見直し、計画的に進めるとともに、専門的な研修やニーズのある内容の研修も行い、資質の向上に努める。 (3)今年度の反省を生かし、学校全体が余裕を持って取り組めるような教育課程を編成する。 (4)ボランティアの支援を十分に生かせるよう、事前に打ち合わせや振り返り等を行う。	○ボランティアの支援を十分に生かせるよう、活動してもらった内容によつてのグループ分け、グループの代表作りなどが必要になると思う。 ○地域への関わりがより強くなるような関係づくりが望まれる。校外に向けた発信が地域との結びつきを強くすることにつながると思うので、引き続き、学校での取り組み等を発信するとよい。
	(2)過ごしや すい環境づ くり	◎各教室の整理整頓と掲示板の活用 ○清掃活動の充実	3.5	(2)生徒の活動の様子や学習したことを掲示板等を活用して示すことができた。どの活動を掲示するか計画的に進める必要がある。 (3)現職教育では研修の内容を複数年見通して計画し、日頃の指導で必要な研修や先進的な課題に関する研修を計画していく必要がある。		
	(3)新たな教 師の学びづ くり	◎現職教育の確保 ○業務改善の推進	3.5	(3)後期の教育課程を工夫し、研修や教材研究が余裕をもってできるよう時間を確保することができた。前期の放課後に様々な活動が集中してしまつた時期があつたので、教育課程を見直す必要がある。 (4)地域コーディネーターの活躍で、昨年度以上にボランティアの方にお手伝いをいただいた。		
	(4)地域とと もにある学 校づくり	◎地域教材、人材の活用 ○学校だより、HPによる啓発	3.6	(4)日々の生徒の様子を、ホームページや各種便りで伝えることができた。		